

第39回学校評議員会 会議録

平成30年2月5日（月） 10:00～11:30

弘前高校応接室

出席者 学校評議員 4名

学校側 校長、教頭（司会）、事務長、教務主任、進路指導主任、生徒指導主任、
教務部員（記録）

1 校長挨拶

校長 : 今、高等学校は教育改革の波が押し寄せている。青森県も生徒数減少に伴い、次年度より新しい教育改革推進計画が始まり、本校はこの地区の重点校という位置づけとなる。また、世の中全体の動きとしては高校の教育課程が変わり、高大接続改革ではセンター試験が廃止となり、新しいテストが実施されていく。それに伴い、英語は4技能が求められ、業者のテストも導入される方向となるなどの変化がある。文部科学省からの正式発表はまだであるものの、これらの教育改革の波が押し寄せているのは明かである。高校の教育に関しても、今まではテストや大学入試をクリアすることが一つの目標としてあったが、これからは「ゼロから1を生み出すことができる人間」をつくるために「主体的で対話的な深い学び」が求められ、授業改革を進めているところである。本校は、「考える授業」を大きな柱としているので、それをさらに深化させていく。求める人間像にある「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」に生徒たちがなるように、これからも推し進めていく。

教育環境の整備はだいぶ進んできた。昨年度よりボイラー設備を整え、廊下も暖まるようになり、また今年度は第一体育館にも暖房設備をつける改修工事を終えた。学校内のほとんどの場所に暖房がつき、学習環境を整えることができたと思う。

生徒の活動においては、多種多様な成果があらわれている。例えば、パチカン市国に行きローマ法王に謁見した生徒もいれば、版画甲子園へ出場する生徒もいる。先日も台湾から修学旅行生が来校し、交流会を行ったが、中国語や英語で話す生徒もおり、子供たちの持っている力は計り知れないということを改めて感じた。

次年度より重点校として、弘前高校がこの地域で中心的な役割を担うので、授業の充実、そして外部への発信ができる形の学校づくりをしていく。

次年度へつなげる地盤固めをしていきたいと思いますので、どうぞ忌憚のないご意見をいただきたい。

2 現状報告

教務部 : ○弘前高校説明会について

- ・全体として高い評価であった。とくに本校生徒による、学校生活に関わるパネルディスカッションの評価が高かった。中学生にとっては、弘高生が何を考え、どんな学校生活を送っているか、生の声を聞くことができる良い機会だったようである。この取り組み

は次年度以降も継続していきたい。また、中学生が授業を見学できる機会も検討していきたい。

○平成 29 年度公開授業の総括について

- ・保護者からは厳しい意見もあった。教科担当者によって指導の力量の違いがあり、それに対して工夫を求める意見である。生徒の学習環境については評価が高くなっている。

○平成 29 年度青森県立弘前高等学校中高連携協議会について

- ・管内の中学校に案内し、授業の参観と研究協議を行った。重点校としての役割を認識し、中学校とどう関わっていくかを考え、入学する生徒たちの状況を共有しながら、生徒を育てていきたい。

○校内職員研修について

- ・今年度は英語 4 技能に関わる研修を行った。本校教員が、今後やらなければならないことについて共通認識を持つことを考える良いきっかけとなった。今後もこのような研修を考えていきたい。根本に立ち返って「生徒にどのような力をつけさせたいか」を考えて、次年度の計画に生かしていく。

○平成 29 年度学校評価について

- ・職員による自己評価は全体として高い評価となっているが、これに満足せず次年度へつなげていく。
- ・保護者からもアンケートをとっているが、様々な意見を頂戴した。すぐに改善できるものもあれば、なかなかすぐに改善するには難しいものもある。他分掌と連携し、改善の方法を探りたい。

生徒指導部 : ○生徒指導全般について

- ・「禁止や命令」で生徒を動かさず、生徒自身が自ら考えて動いてもらう指導を行っている。ただ、問題行動の件数（配付資料 P 30）を見るとまだまだ生徒が出来ていない部分もあると感じる。
- ・生徒に関する苦情は、自転車の乗り方や交通マナーに関する苦情であった。
- ・自転車運転中の事故は今年度多かった（特に 1 年生）。重大な事故は無かったが、次年度以降対策が必要か検討中である。
- ・今年度は問題行動が 2 件あった。
- ・勉強以外のところで、挨拶など将来、社会に出て必要なことを機会をみて生徒へ呼びかけてきた。

○各種大会上位入賞者について

- ・入賞者一覧は高総体以降のものである。
- ・例年よりも入賞者が多い印象である。しかし、団体種目や忍耐力を必要とする競技でもう少し頑張りたい。

進路指導部 : ○進路指導全般について

- ・卒業後、社会の中で自ら判断して行動できるように、また社会に出てからも勉強できるように生徒へ指導している。生徒たちの将来につながることは何かを考えながら進路指導を行っている。

○学習状況調査について

- ・年に2回実施。(資料は2回目のもの)
 - ・家庭学習時間は1, 2年とも前回より増加傾向にある。「ほとんどしない」という生徒もまだいるので、このような生徒への指導を継続していく。
 - ・各教科で、自分のイメージ通りにいかなかったり、授業についていけない生徒も増えてきている。全教員に調査結果を提示し、各教科の指導において工夫をしてもらっている。
 - ・1年生は塾に通っている者が減り、塾での学習から学校での学習を大事にするようになってきている傾向がある。2年生はさらにその傾向が見られる。
 - ・携帯電話やスマートフォンの使用時間と成績との関係も調べている。使用時間が長い生徒ほど、学習に良い影響がないという傾向である。
- 3年生の合格状況、出願状況について
- ・昨年度の数と比較できるようになっているが、昨年度までは1学年7クラスであったが、今年度からは1学年6クラスである。
 - ・学年全体の生徒数は減少しているが、東北大学の出願者数は減っていない。難関大学を目指す力と意欲が生徒についていると感じる。2月25日、26日の国公立大学前期試験まで3年生は講座制授業を展開しているが、最後の最後まで生徒を頑張らせて、生徒にとって良い結果となるように指導していく。
- 進路志望調査について
- ・前回の調査よりも1年生の東北大学、医学部医学科志望者が増加している。

3 校内一巡

校内一巡 (授業参観)

4 意見交換及び質疑応答

教頭 : 各評議員からご質問やご意見を頂く。

評議員敦賀氏 : 弘高説明会のアンケートについて、弘前高校の自主性を重んじる教育方針が保護者や中学生から共感を得ていると感じ、嬉しく思った。私の子供も中学生の時に弘高説明会に参加し、弘前高校に入りたいという気持ちが強まっていた。これからも創意工夫をし、さらに充実させて弘高説明会を実施していただきたい。

評議員敦賀氏 : 学校評価について、今回配布された資料の中にある保護者アンケートをじっくりと読んだ。おおむね評価は高く、感謝の意が表れていたが、忌憚のない意見もあった。それは学校を頼っているからこそであると考え。その中で、「教員について」「学習指導について」に共通してあった意見で、「進路指導に偏りがある」といった内容の意見が気になった。これらの意見は真摯に受け止めていただいて、一部の意見であっても大事にして欲しい。子供が自分で調べてきて進みたいと思った進路を尊重してあげて欲しい。それに対して、生徒がさらに上を目指すことで、生徒が将来やりたいものを実現できるというアドバ

イスであるのならば良い。しかし、それを意図しないで押しつけるような進路指導はいけないという保護者からのご意見ではないかと考える。

進路指導部 : 教員が生徒にかけられる声は生徒の将来に大きく影響する。正しく伝わるように十分気を付け、また生徒がやる気が出るような声かけをしていきたい。

評議員敦賀氏 : 進路指導部というより、直接生徒に指導する機会の多い担任の先生方が声かけをする場面が多いと感じる。生徒と先生方との信頼関係があれば、厳しい指導でも生徒のやる気につながるはずであるので、信頼関係の構築に努めていただきたい。

評議員敦賀氏 : 子供の睡眠時間が足りないと感じた。学校側の回答としては「週1回休養日を取るようになっている」とあるが、大会などが重ならないのであるならば、平日ではなく土日のどちらか1日を休みにできないものか。先生方の部活動での負担も大きく、大変だと感じるので、毎週とは言わないが、なんとか考えていただきたい。

生徒指導部 : 勉強と部活動の両立は本来苦しいものであるからこそ、意義がある。しかし、生徒の健康を害してまで部活動をするのは決して良くない。なので、週1回の休養日を設けることは職員間で合意している。ただ、平日に休養日を設けるか休日に休養日を設けるかは各部の事情もあると思われるので、各部に判断を任せている。

評議員敦賀氏 : 1年生の自転車事故が目立った。通学路の危険な箇所などが分かっていないのではないかと。PTAでも声かけ運動などを実施しているが、もう少し時期を調整し、入学間もないあたりに実施した方が良いか検討していく。

生徒指導部 : 自転車事故の対策として安全講習会を実施するのは日程的に厳しいところがあるので、今年度の事故の状況や通学路の危険マップなどを生徒へ配布するなどをして事故の予防に努めたい。

評議員中根氏 : 今年度の出願状況を見たが、弘前大学の医学部医学科志望者が減ったのは、3年生のクラス数が減ったことが影響しているのか。また、学年全体で医学部医学科志望者はどのくらいいるのか。

進路指導部 : 弘前大学医学部医学科の出願者数が減ったのはクラス数減少も影響がある。私立大学を志望する生徒も含めて、学年全体で30人弱ほどが医学部医学科を受験する。

評議員中根氏 : 弘高説明会アンケートで「身体が不自由で車でしか来られない人への対応」を求める意見が気になった。

教務部 : 恐らく、車での来校を遠慮していることへ対するご意見ではないかと考える。参加希望者からご説明、ご要望があれば個別に対応するが、要項に記載して全体に周知するのは難しいと考える。

評議員中根氏 : 学校評価の保護者アンケートの意見で学校側に求めているものに対して全て応えるのは大変だと感じる。

大学でもアクティブラーニングを推進しているが、ベース（基礎学力）がないと成り立たないと感じる。基礎学力をつける授業とアクティブラーニングを取り入れた授業とのバランスが大事であると感じるが、高校ではどうバランスをとってやっていくか。将来の進

路指導との関わりの面においても、そのバランスは難しい。下手すると、逆に学力低下を招きかねないので、工夫をして実施しないとイケない。

評議員木村氏： 生徒の登下校を普段から注視している。寺沢川近くに住んでいるが、冬になると雪が固まっているところがあり、生徒が登下校の際に川に落ちてしまう恐れもあって、危険であると感じた。その旨を学校に連絡したところ、すぐに対応し、除雪してくれたので大変ありがたいがたく思い、また安心した。

評議員木村氏： 10月の公開授業の際にも授業参観をし、また運動会の様子も拝見したが、生徒たちの行事と授業との様子が全く違い、随分メリハリができていると感じた。ただ、教室内のスペースにゆとりが無く、すごい密度で授業を行っているのが気になった。生徒数が減少しているのであれば、もっと教室のスペースを確保し、もっとゆとりを持たせれば（隣の人の間隔があれば）、心のゆとりも生まれるのではないかと。

教頭： 現在でも、各教室棟に教室が空いている状況であり、理科や地歴公民科の選択の授業では使用教室を複数使用して授業を行っている。

校長： 以前、学年が8クラスあったときは、理型が5クラスで文型が3クラスの編制で、7クラスの時は理型が4クラスで文型が3クラスの編制が多かった。しかし、現在の6クラスでは理型が3クラスで文型が3クラスとなり、どうしてもどちらかの類型に人数の偏りが生じてしまう。そのため、人数の多い類型の教室はせまくなってしまった。6クラスの弊害であると感じる。

他県では、6クラスのうち2クラスを「探究クラス」としたり、学年で9クラスであるものを3学年へとなる段階で10クラスに編制し直す学校もある。しかし、各学校内での工夫はできるが、それにより教員の数が増える訳ではない。学校内での努力でそのような工夫は可能ではある。

評議員赤石氏： 実際に校内を見学したら、暖房設備が充実していると感じた。昔は冬に校内で息を吐くと白い息が見えるのが普通であったことを考えると、今の生徒たちは恵まれていると感じた。ただ、授業参観したところ生徒の多くがマスクを着用していたが、風邪などが流行しているからなのか。それとも予防のために着用しているのか。

校長： 先々週、インフルエンザの罹患者が増加し、1クラスを学級閉鎖とした。学校として最大の危機感を持って予防に努めているためマスクを着用している生徒が多い。

評議員赤石氏： 今ちょうど受験前で、風邪についても学校として非常に気をつかう時期であると感じる。授業参観をして、ちょうど自分の子供のことを思い出した。センター試験の結果があまり良くなかったが、その後の先生方の後押しで二次試験まで頑張ることができ、なんとか大学に合格できた。先ほどの敦賀氏の話にもあったように、先生と子供たちの信頼関係が非常に大事である。二次試験までの心の後押し、勉強の後押しが必要である。

評議員赤石氏： 配付資料を見ると、生徒の生活面や健康面に関わることもきちんとアナウンスしており、勉強や進路指導以外の面でも様々やられていると感じた。先生たちがよく子供たちに接していると感じた。これからも続けて、よりよい高校生活にして欲しい。

5 学校関係者評価について

- 教頭 : 先日、生徒の評価、保護者の評価、教員の評価を行った。その結果を総合的にまとめたものがP10の資料である。以下、重点目標への自己評価である。
- 「1. 確かな学力を育成します」について
新しい授業改革、研究授業など行ってはいるが、まだまだできることがあるのではと思い、評価をBとした。
- 「2. 豊かな人間性と社会性を育成します」について
本校は弘高ねぶたがあり、その制作でのクラス内、他の学年の生徒との関わりなどから「期限を守る」など生徒の様々な資質や能力を磨いている。各教員は「規律ある自由」を折に触れ生徒へ話をしているし、生徒指導部から情報モラルを1年生に早い段階で話している。生徒の体験活動や教員の個々の指導などは充実できていると思ったのでA評価にした。
- 「3. キャリア教育を推進します」について
総合的な学習の時間でも自分の進路に関して学部学科研究をし、また自分の興味関心に応じて調べる学習をさせている。生徒のキャリアに完全につながったとは言いがたいので、B評価にした。
- 「4. 重点校としての基礎基盤を整備します」について
正式には重点校としては次年度からではあるが、重点校になってから取り組むのは遅く、今から出来ることは準備にとりかかっている。先ほど教務部からもあったように英語4技能に関わる校内研修を開き、次年度以降の英語教育はどうあるべきかを県の担当指導主事を招いて講義をしてもらった。しかし、3に同じくまだまだ完璧であるとは言いがたいので、B評価にした。
- 先ほど各評議員から頂いた意見を取り入れながら、再度検討し、県に提出する。
- 校長 : 長い時間にわたり、様々な意見ありがとうございました。先ほどの敦賀氏からの「自分を生かせる大学、学部などへの幅広い進路指導を」という意見があった。東北大学はこの地域の総合大学ということで、学校単位でオープンキャンパスに行くなど、どうしても先生方が生徒に進路をすすめる上で、まず東北大学となりがちである。しかし、一方で先生方が他の大学を知らないことも一因かと考える。今年度は先生方を様々な大学（東京外国語大や一橋大など）へ派遣し、実際に訪問して見て知る機会を増やした。各大学の魅力を生徒たちへ先生方の口から伝えられるようにしたい。
- 学校はまず「学校に行きたい」と生徒たちが思えるようしなければならない。生徒たちが日々の高校生活を楽しみにできるように、また学校内外の安心、安全も確保をしていきたい。
- また、心身の健康面の問題もある。教員の多忙化の問題や部活動のあり方が問題となっている。遠征など土日に活動をし、その活動から生徒が学び、それが成長につながることもある。先生方の考えや各部の事情もあるので、先生方の指導を尊重し、生徒の健康を守

りながら部活動を行っていきたい。

135年という弘前高校の長い伝統がある。生徒たちに「こうしなさい」という指導ではなく、生徒たちが「自分で考える」「自分の思いを持って行動する」後押しをするのがこの学校の伝統である。この伝統はこれからも続けて行ってほしい。弘前高校では、それぞれの生徒の良さを生かしながら、生徒が自分で考え、自分の手足で行動ができるように育てていきたい。

今年度だけでなく、次年度も様々なかたちでご指導いただきたいです。

以上